

令和8年（2026）7月17日 前期全校集会 校長より

皆さん、おはようございます。ここ数日、すっかり暑くなりましたが、体調管理はできていますか。さて、今年度がスタートしてはや4か月余り、この間、合唱コンクールを皮切りに、先週末の文化祭まで、様々な行事で皆さんの活躍を目にすることができました。少々疲れがたまっているかもしれません。明日からの夏休み、しっかりと身体を休めて英気を養ってください。

さて、先日ある国立大学の副学長の方とお話をする機会がありました。大学は研究機関であり、常に時代の最先端を意識し、国の方針を担う人材を育成するという使命も担っています。その大学でも、例えば生成AIをどのように扱うか、検討のためのプロジェクトを立ち上げるなど、先進研究に余念のない様子でした。

このように、大学は焦っています。しかし、一方で高校はどうか。高校はどうしても既存の学習に時間が割かれ、ともすれば大学入試を前提とした知識偏重型の教育の域から脱していない状況です。つまり、大学と温度差がある。この温度差をどのように埋めていくか、そんなことを副学長の方と議論しました。

高市内閣が成長戦略17分野を公表しましたが、その中身を皆さんご存じですか。2040年度までに17戦略分野で官民合わせて約370兆円規模の投資を目指すというもので、どの産業へ資本・人材・技術・制度を集中させるかという戦略です。今後の日本の産業構造を再編する非常に重要な成長戦略であるといえます。

17分野とは、航空・宇宙、デジタル・サイバーセキュリティ、資源・エネルギー安全保障、防災・国土強靱化、防衛産業など、様々ありますが、中でも力を入れているのはAI・半導体分野です。半導体製作は日本の安全保障と産業競争力の中核に位置づけられています。

また、量子コンピューターという単語も出てきます。現在、世界最速のスーパーコンピューターが1万年かかる数学の問題を数分で解いてしまうという究極のコンピューターです。19世紀後半にドイツで盛んだった鉄鋼業にとって、何千度にもなる溶鉱炉の温度を何とか正確に測る方法はないものかという問いがきっかけになり、量子力学が生まれました。その原理を演算に応用したのが量子コンピューターです。

では、量子コンピューターが実用化されると私たちの生活はどう変わるか。新たな病気に対応する新薬があつという間に作られる、腫瘍ができる何年も前にがんを見つけるからただの風邪のようになる、道路に埋め込まれたセンサーがコンピューターにつながり、秒単位で個々の信号を制御するので渋滞がなくなる、空気に含まれる窒素を肥料に変える秘密を解き明かし、世界の食糧問題は解決する、これが量子コンピューターがもたらす未来だそうです。

こうした開発競争の波が、これから世界を席卷していくことになるでしょう。この波についていけるかどうか、最先端の科学技術を模索する大学の焦りを高校生のうちから感じ取ることができれば、これからの時代においてリーダーシップを発揮できる人材になれるかもしれません。高校生のうちから視野を広げておくことは大切なことです。夏休みは普段の授業から離れ、興味・関心のある分野の研究ができるよい機会です。まずは本を読むことから始めるといいかもしれません。ぜひ有意義な時間を過ごしてください。

それでは、明日からの夏休み、この後の先生方からの諸注意をしっかりと聞いて、元気に過ごしてください。夏休み明けにまた会いましょう。